

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 12 日現在

機関番号：32642  
 研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2009～2012  
 課題番号：21520755  
 研究課題名（和文） 近現代英国の緑化思想と都市の住空間にみる植物の消費文化に関する領域横断的研究  
 研究課題名（英文） Multidisciplinary Study on the Consumer Culture of Plants in the Modern and Contemporary British Society: the idea of greening the urban spaces  
 研究代表者  
 井田（菅）靖子（IDA (SUGA) YASUKO）  
 津田塾大学・学芸学部・准教授  
 研究者番号：20312910

## 研究成果の概要（和文）：

本研究では、急速に都市化した近現代イギリスにおける「緑化」をめぐる人びとの思考の変化が、都市の住環境にどのように反映され表象されているかを考えるために、19 世紀から 20 世紀初期のイギリスにおける緑の象徴的役割、(人造植物も含む) 観用植物や植物デザインなどを利用した私的空間の緑化と室内装飾との関連、労働者階級のための「合理的余暇」としての緑の働きなど、顕示的消費の対象としての植物のさまざまな役割を解明した。

## 研究成果の概要（英文）：

This research focused on the consumer culture of greenery in the 19<sup>th</sup> and 20<sup>th</sup> century British society in the time of rapid urbanization, and on how the change in the people's concept of greenery reflected it. Through the research, the symbolic role of greenery at home, the use of natural and artificial greenery in domestic interior decoration, and the significance of greenery for the working class as 'rational leisure', were reconsidered. The meaning of plants as the object of 'conspicuous consumption' was investigated.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：西洋史

キーワード：デザイン史、消費文化史、イギリス、室内装飾、植物

## 1. 研究開始当初の背景

私は近現代イギリスの消費文化を計量分析のみならず、表象の文化的機能という質的分析を加えて歴史的に考察した科研費による過去の研究成果から、多様な製品デザインを考察対象としてきた一連の探究の過程で、

19 世紀から 20 世紀初期のイギリスの消費文化が当時の植物観、ひいては自然観と密接な相関関係にあることを痛感した。ジャポニスムやウィリアム・モリスの流行も、その特徴をなす植物のモチーフなしにはあり得ない。産業革命後のイギリスにおける自然回帰思

想の高揚は周知の事実であるが、都市と自然をめぐると言説がイギリス社会のなかで科学と芸術、人工と自然といった既成の対立概念の枠を超えて様々に変容していった過程と、それが都市の私的空間の緑化に実際に果たした役割について更に考察したいと考えた。

消費文化研究においては従来「製品」が主たる研究対象であり、「植物」を取り上げた研究は存在しない。また住環境の形態を扱う建築史、デザイン史の分野でも建築、家具や絵画が中心であり、より流動的な「消耗品」として植物や植物モチーフが「消費」された実態に迫る研究がみられない。その意味で、領域横断的な視点から都市の自然環境の一環として住環境の緑化を位置づける本研究は、環境史や消費文化研究の新しい接点を見いだすのではないかと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、急速に都市化した近現代イギリスにおける「緑化」をめぐるとの思考の変化が、都市という近代的な住環境にどのように反映され表象されているかを検討し、19世紀から20世紀初期のイギリス人の自然環境に対する感受性の変遷を浮き彫りにするという全体構想の下に、都市生活者に最も身近であった（人造植物も含む）観用植物や植物デザインなどを利用した私的空間の緑化（「緑」の配置、栽培、緑を用いた室内装飾）がこの時期に急速に発展した経緯、および園芸の趣味が貴族の奢侈から大衆の健全な「合理的余暇」(「rational leisure」)や精神的な慰めへとコンテクストを広げていった過程を探ること、さらにそうした知見を近現代イギリスの国家アイデンティティ概念（「緑の国」あるいは「庭師（ガーデナー）の国」）の形成過程の再検討へとつなげることにある。

## 3. 研究の方法

初年度は、主に19世紀の新聞のデータベースを用いて、植物の受容、博覧会、クリスマス、シダブームなどに関する記事を検索、抜粋した。また、重要な資料の購入を行い、分析を進めた。イギリスにおける必要文献の収集を行うとともに、19世紀の植物モチーフの壁紙として代表的でありイギリスで広く用いられた金唐革紙のデータベース作成を行った。また室内での植物栽培に多大な影響を与えたウォード箱の広告展開や普及状況、またクリスマスツリーを室内に飾る風習の定着過程など、人びとの生活環境と植物の関わりについて当時のメディアによって具体的にどのような報道がなされたのかを *The Times*、*Manchester Guardian* 他新聞記事を用いて調査した。また、緑化の思想と自然科学の発達との関連性について調査した。例え

ば観葉植物は新タイプの家具を生み出したため、19世紀後半より種類、発行部数共に増加した家庭雑誌や、ヒール社やメイブル社のような大手家具業者のアーカイヴ資料からは、家庭における緑の演出法の検証が可能となった。

平成22,23年度は、主に地域社会あるいは階級意識と植物の育成との関連に注目しながらイギリス各地（花卉栽培愛好家の団体が古くからあるヨーク、ノリッジ、マンチェスター、ダービー、ロンドン）の花卉協会や園芸協会の歴史を探った。地方都市の市民の園芸活動に関する一次史料や様々な園芸団体の活動記録に関してはローカルアーカイヴのリサーチサービスを用いつつ、日記や写真アルバムなどのデータや諸団体の活動記録といった一次資料をできるかぎり収集した。また、品種改良や景観など、自然と民衆との関わりを広く探るための二次文献を購入した。それらをもとに、地域と緑の関係、また聖職者による園芸活動の位置づけ、都市のモラルを守るという植物（栽培）の新たな役割などをテーマに考察を行った。さらに、百貨店や小売店のパンフレットや活動記録、インテリア関連の業界雑誌、家庭雑誌の分析を通して、植物の消費とメディアの変遷、および植物にみる異国趣味（とりわけ日本との関連でジャポニスム）とヴァナキュラリズムについて考察した。

最終年度はもうすこし掘り下げる必要があったデザイン運動の動きと植物の消費文化の関連性を分析するための資料を読み進めた。そのためにロンドンで資料収集を行い、*National Art Library* に雑誌やカタログのイギリス最大のコレクションがあるため、その検証をおこなった。また、関連資料を持つ *Archives of Art and Design*、*British Library* にも資料を閲覧した。また、研究の総括としての成果発表のための原稿をできるだけ書き進めた。

## 4. 研究成果

研究成果は以下の3点に纏められる。

- (1) 緑の象徴的役割：19世紀前半の福音主義と家庭崇拜の高まりは、クリスマスツリーなど季節限定の室内緑化の習慣を後押しした。一方、ウォード箱の発明などの技術改良により室内での植物栽培が飛躍的に容易になった。また酸素の科学的性質が既に明らかになり、都市の不衛生が社会問題化した19世紀に、植物はロマン主義的な自然回帰傾向に加え、空気の浄化手段という衛生的見地から、都市生活に不可欠なものとして位置づけられた。F・ナイティンゲールらによる当時の医学関係書も緑の重要性を訴えている。1884年の国際健康博覧会（ロンドン）は住環境の衛生が論じられる重要な契機となった。また、1881年に自然史博物館が設立されたことも、一つの植物観、自然観の現れとして注目に値

する。家庭の役割や植物の品種改良などをめぐる市民の道徳意識を支配した当時の宗教思想、リンネやダーウィンらの新しい自然科学思想、という聖俗の二大潮流の存在も確認された。「緑」の象徴的役割に関する言説の形成と都市環境の変容との関連性を考究する。都市の発達は、理想の「田園」を逆説的に生み出したように、理想の家庭像や緑化の言説にも影響を与えた。更に、科学技術の進歩が可能にした植物管理法が第一回ロンドン万博(1851)において重要な位置づけを持ったことが明らかとなった。

- (2) 緑と室内装飾：装飾としての植物と消費者との間には、19世紀に発達した新しい流通システムが介在したことが確認された。科学技術の発展とともに模造品製造産業が多様化していくなかで、植物の分野でも、造花や人造観葉植物が重要な室内緑化の手段となっていたことが明らかとなった。また、人造植物を含めた観葉植物の流行が、物理的にはガラスの多用により光と空気を極力住居へ取り入れようとしたモダン建築、精神的には個人の純粋な感覚に重きを置いたモダニズム思想の発展と無関係ではないことが明らかとなった。また、植物のコレクションが帝国主義の象徴でもあった当時、専門家から愛好家までを含むプラントハンター達は植民地を舞台とした外来種の採集に狂奔し、大英帝国の知の蓄積と「栄光」に貢献しており、東洋、とりわけ日本の植物は好奇的となり、C・ドレッサーら日本を訪れたデザイン関係者やR・オールコックら外交官によって詳細に記述されていたので、日本とイギリスにみる植物(あるいは植物モチーフを用いた装飾)の交流の歴史も検証した。
- (3) 労働者階級と緑：労働者階級は植物の流行を追う余裕も郊外へ脱出する余裕もなかったが、彼らの間にも、ウィンドウボックスなどの緑化の理論と実践が浸透していった。それは19世紀初期から見られる中流階級主導の教育的な禁酒運動や「健全」な「合理的娯楽」運動の一環として園芸が位置づけられたことにより、植物と市民道徳とは密接に結びつけられ、「市民菜園」運動や「窓辺の庭」も奨励された。19世紀後期の労働者用モデル住宅にも、緑化のスペースが組み込まれていった。一方、労働者階級中心の花卉栽培愛好家の活動も盛んになり、これが労働者階級における「顕示的消費」の意味合いを含むようになったことが明らかとなった。また、20世紀になると、G・オーウェルの『葉ランをそよがせよ』や、当時の流行歌にもみられるように、植物が階級を視覚的に表すまでになった。これらから、イギリス社会において、階級的共同体の強化に「顕示的消費」としての緑化が影響力を及ぼしたことを検証した。

以上から、とりわけ「顕示的消費」の対象としての植物の様々な役割が解明され、さらには植物が「緑の国イギリス」の国家アイデンティティ概念の形成に歴史的にどのように関わっており、この概念がいかに人工的に創られていったのかを考察した。

こうした研究の成果は、学習院大学で開催された消費文化史の国際会議での口頭発表、*Proceedings* の出版、国内の学会での論文発表などを通じて社会還元がなされた。さらに、最終的な研究成果をまとめるための出版社の編集者とも平成23年度より定期的に打ち合わせを行っており、近年中に単行本として刊行される予定である。また、2015年度から開講される放送大学の新科目「植物からみるヨーロッパ史」の分担講師として、本研究にて得られた知見と貴重な一次資料の数々を教科書執筆および放送にて社会に還元したいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

Yasuko Suga, 'Green Debates on "Industrial Conservatory": Great Exhibition and its influence on the consumer culture of plants', *History of Consumer Culture, International Conference Proceedings*, 2012

菅 靖子、両大戦間期イギリスの空間のジャポニズムにみる生け花・盆栽の影響、デザイン学研究、日本デザイン学会学会誌、査読有、57巻4号、2010、1-10

〔学会発表〕(計1件)

Yasuko Suga, 'Green Debates on "Industrial Conservatory": Great Exhibition and its influence on the consumer culture of plants', *International Conference on History of Consumer Culture*, Gakushuin University, 26 March 2012

〔書籍〕(計4件)

菅 靖子、「C・S・ピール夫人が描いた食の近代化—第一次世界大戦を中心に」『欲ばりな女たち—近現代イギリス女性史論集』、彩流社、2013。

菅 靖子、『金唐紙-KINKARAKAMI the art of Japanese Leather Paper』改訂版、金唐紙研究所、2010

菅 靖子、Writings on domestic advice and social history / C. S. Peel. 別冊解説 アティーナ・プレス、2010

菅 靖子、*Harmsworth's household encyclopedia: a practical guide to all*

*home crafts*. 別冊解説、アティエーナ・プレス、  
2009

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

井田（菅）靖子（IDA (SUGA) YASUKO)

津田塾大学・学芸学部・准教授

研究者番号：20312910